

食品ロス問題解決の現状と解決に向けた取り組み

—フードバンク活動の観点から—

氏名 原田 拓海

本来食べられるはずの食品が様々な要因によって廃棄されてしまい、世界中で問題になっている食品ロス。農林水産省によると、2020年度での日本での食品ロスは522万t発生している。この量は毎日国民がお茶碗約1杯分のご飯を捨てていることになる。そして食品ロスは持続可能な開発目標(SDGs)達成の1つでもある「つくる責任、つかう責任」の項目にあたることから早急に解決していかなければならない。そこで本研究では食品ロス問題の現状と対策、課題について検討する。食品ロスは先進国と発展途上国での食の格差の拡大に繋がり、限られた資源を無駄にし、環境問題につながる。こうした背景から食品ロス削減に努めなければならない。

食品ロス問題と同じく世界で問題になっている貧困、飢餓問題の対策として近年、注目されている活動としてフードバンク活動がある。これは食品事業者や家庭での余った食品または廃棄されてしまう食品を無償でNPO法人や社会福祉協議会等に寄付して無償で困窮者に食品を提供、支援する制度である。フードバンクは困窮者支援と同時に食品ロスの削減にもなる。

そこで本研究のテーマとして食品ロス削減とフードバンクについての考察と実際に筆者がフードバンク活動を行っているNPO法人に調査した結果について考察したうえで、食品ロス削減と困窮者支援のフードバンク活動の取り組みがより広まることを願う。